企画・制作 読売新聞西部本社広告局

広告

また一つ新しい魅力が誕生! スマートタウン 「CO_2ゼロ街区」

アイランドシティの住宅地は、2005年の「照葉のまち」オープンで新しい歴史が始まり、現在約1,600世帯、約5,000人が居住。緑地整備や親水空間の創出など環境と共生したまちづくりが進んでいますが、東日本大震災後はエネルギー問題への対応も考慮し、今後は、太陽光など自然エネルギーを活用した国内トップレベルの創エネ・省エネ型都市を目指すことにしています。

「CO_2ゼロ街区」のまち並み

その先導モデルとなるのが、福岡市の「CO_2ゼロ街区」というコンセプトのもと10月31日にまちびらきした「照葉スマートタウン」です。計画では、積水ハウス(株)等が、約6ヘクの敷地に戸建住宅178戸を2015年までに建設します。街区内の住宅に先進的な創エネ・省エネ機器を集中的に導入して、街区全体でCO_2排出量をゼロにしようとする全国でも例を見ない先進的な取り組みです。

エネルギーの「見える化」と省エネポイントも

具体的には、太陽光発電システムや家庭用燃料電池(エネファーム)による発電を行い、蓄電池システムや電気自動車用の充電用コンセントを設置。HEMS(ホーム・エネルギー・マネジメント・システム)という家庭内のエネルギーを管理するシステムの導入により、専用のモニターでエネルギーの使用量などの「見える化」を図り、街区全体のエネルギー使用量やCO_2排出量を把握することで、まち全体の省エネにつながります。

その他、省エネを頑張った家庭にポイントを付け、年間の総獲得ポイントが多い家庭は、自治会の総会時に表彰するとともに、商品と交換するという家族ぐるみで楽しみながら取り組む仕組みもあります。11月3日(土)、4日(日)は「まちびらきフェア」が開催され、実際に、スマートタウンが提案する新たなライフスタイルを体感することができますので、アイランドシティへぜひお越しください。

※アイランドシティ最新図は、福岡市・博多港開発株式会社のアイランドシティ事業計画(平成21年12月)に基づいたイメージパースをもとに描きおこしたもので、実際とは異なります。

安全・安心の 恵まれた子育て環境

子育て環境で注目されるのは、「照葉小中学校」です。福岡市立では初めての施設一体型小中連携教育校で、2007年に小学校、2008年に中学校が開校しました。

最大の特徴は小学校と中学校が一体となった校舎で、小学生と中学生が一緒に学校生活を送っていることです。図書室、体育館など共同で使用する施設もあります。また小学生と中学生の一部の児童・生徒が集まって一緒に給食を食べる交流給食なども行われ、様々な年齢の子どもたちが活発な交流をしています。

学校行事でも小中学校合同の運動会などが行われ、少子化の中で「お兄さん、お姉さん」「弟や妹」としての自覚や社会性を養います。

また、小学校高学年の一部教科では、中学校の先生が授業をして、中学に進学する際、学力や学校生活で起きやすい「中1ギャップ」の解消に努められるのも、小中連携教育校ならではの強みです。

照葉小中学校のそばには、アイランドシティ保育園と香椎照葉幼児園があり、幼児から中学生までの教育施設が整っています。

アイランドシティ中央公園や外周緑地、体験学習施設「ぐりんぐりん」など、子どもが思いっきり遊べて学べる広場や施設もいっぱいです。

安心のタウンセキュリティー

また安全面についても住民が安全・安心に暮らせるように取り組みが進められています。特に「照葉のまち」の「24時間常駐型タウンセキュリティー」は九州初の導入です。異常事態に備えて警備員がアイランドシティ内の巡回パトロールや子どもたちの登下校の時間に合わせた登下校パトロールも実施しています。

子どもたちでにぎわうアイランドシティ中央公園

誰もが生きいき 健康未来都市 健康・医療・福祉が充実

アイランドシティでは、博多湾の豊かな自然と、アイランドシティ中央公園などまち全体をおおう緑に囲まれた豊かな環境の中で、「健康」「医療」「福祉」がひとつになったまちづくりが進んでいます。

健康分野では、さまざまな種目のスクールを開設するスポーツ研修施設があり、子どもたちがスポーツを通じて成長する環境が整っています。また、海沿いの緑地では、毎月スロージョギング教室が開催されるなど、子どもからお年寄りまで参加できる健康づくりの取り組みも盛んです。さらに、2013年春には、アイランドシティと香住ヶ丘をつなぐ海上遊歩道「あいたか橋」(全長430m、幅4m)が開通し、海や風を感じながら散歩したり走ったりできる1周3kmのコースが誕生します。

あいたか橋

新たに高度医療施設も開院予定

医療分野では、既に開設している膝関節・股関節外科病院に加えて、2014年度には、西日本でも有数の小児専門高度医療施設である「福岡市立新病院(こども病院)」が開院するとともに、「高度・多機能型リハビリテーション施設」の開設も予定されているなど、高度な医療に身近に接する機会が一層整うことになります。

福祉分野では、豊かな自然に囲まれた環境の中で、お年寄りが介護サービスを受けることができる特別養護老人ホームが開設されており、地域のボランティアによる見守りやレクリエーション活動など、地域と施設が一体になった取り組みが行われています。2013年度には、地域密着型高齢者施設が新たに開設され、お年寄りも安心して暮らせる環境が更に充実することになります。

福岡市立新病院(こども病院)の完成予想図

みんなで関わるまちづくり
—「アイランドシティ・アーバンデザインセンター(UDCI)」がオープン—

10月28日にアイランドシティのまちづくりの拠点となる「アイランドシティ・アーバンデザインセンター(UDCI)」が、シーマークビルにオープンしました。UDCIは、行政機関や住民、企業、大学など、公・民・学が連携し、様々な視点や発想をもってアイランドシティのまちづくりを考え、実施することで、まちの魅力向上、高質な住環境の形成を図るための施設です。「まちづくり活動の企画」や「まちのデザインの研究・提案」、「大学や企業の調査・研究の誘致」、「アイランドシティに関する情報発信」などを行っていきます。

災害に強いまちづくり 安全・液状化対策

アイランドシティは、液状化に強い埋め立て工事、耐震性に優れたライフラインや橋の整備など、自然災害への備えを充実させています。液状化対策としては、液状化が生じにくい粘土成分の多いまで埋め立て、荷重をかけて土中の水分を抜く地盤改良を施しています。電気や通信用、ガスの上下水道管などのライフラインについては、電線類の地中化や、耐震配管を使うなどの強化策を行っています。また、アイランドシティにかかる三つの橋は、兵庫県南部地震後の新基準で設計・施工し、落橋防止装置等を備え、大地震でも大きな損害を受けない構造になっています。災害時に物資輸送や救助活動を円滑に行う緊急輸送路や耐震強化岸壁も整備されています。

まちびらきフェア

日程 11月3日(土)(祝)・4日(日)

場所 アイランドシティ「照葉スマートタウン」特設会場

期間中、モデルハウスも開かれ、実際に新しい暮らしを感じることができます。ぜひ、お越しください!

HKT48と学ぶ! アイランドシティ 魅力あるまちづくり 徹底解剖!

博多湾東部に位置するアイランドシティ(東区)では、将来約1万8000人(計画人口)が暮らす新しいまちづくりが着々と進んでいます。10月31日にはスマートタウン「CO_2ゼロ街区」が新しくまちびらき。21世紀のモデル都市を目指し日々魅力を増す新都市紹介第2弾(1回目は10月31日掲載)を、アイドルグループHKT48のメンバーとともにお届けします。

HKT48 福岡の全女アイドルグループ。東京・秋葉原を拠点とするAKB48の姉妹ユニットとして2011年11月に劇場デビュー。福岡ソフトバンクホークスの応援などを企業とタイアップ、読売新聞西部本社の公式サポーターも務める。テレビ、雑誌、雑誌などの幅広いメディアに出演しながら、「食べにいけるアイドル」として福岡市中心に活動している。作詞家の秋元康氏が総合プロデューサー。

©AKS